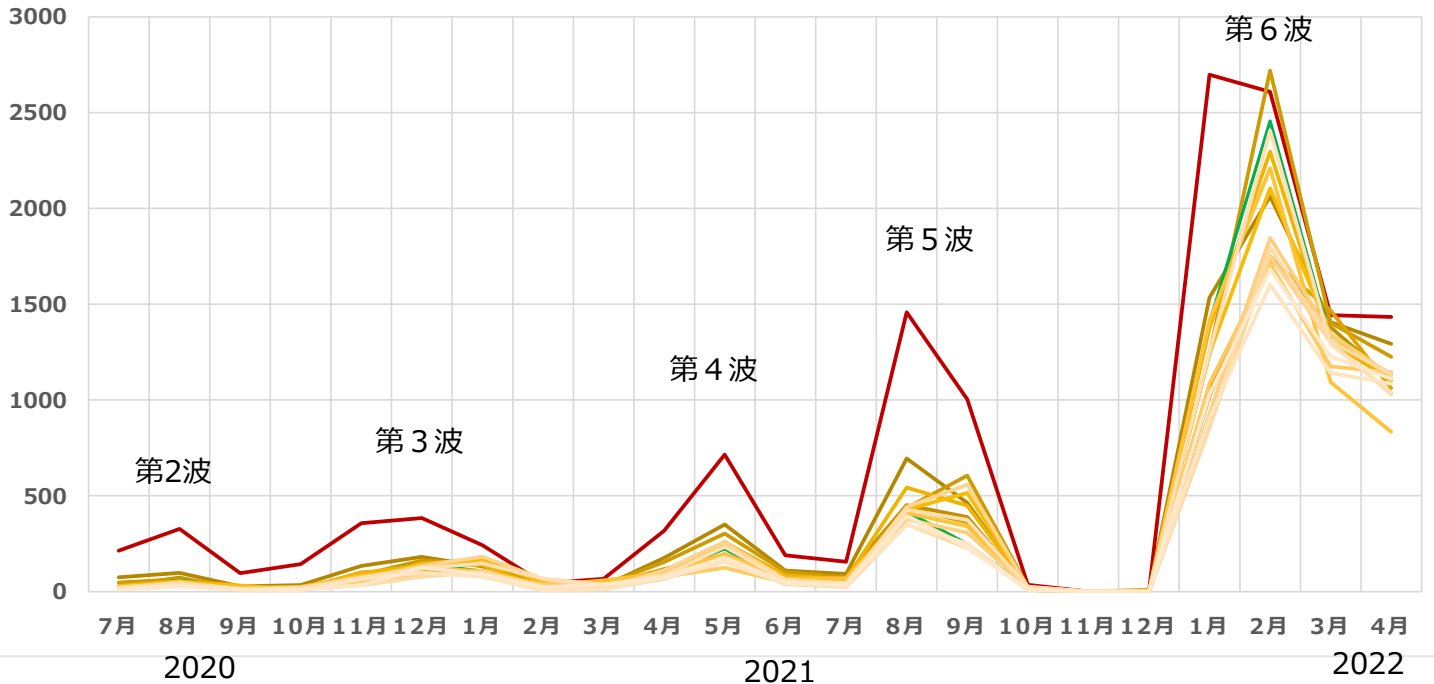


昭和区の感染者数は？

～第3・4回抗体保有調査報告書について～

名古屋市区別の月別人口10万対比感染者数の推移

— 中区 — 東区 — 西区 — 中村区 — 千種区 — 昭和区 — 北区 — 中川区
— 熱田区 — 瑞穂区 — 守山区 — 港区 — 緑区 — 南区 — 名東区 — 天白区

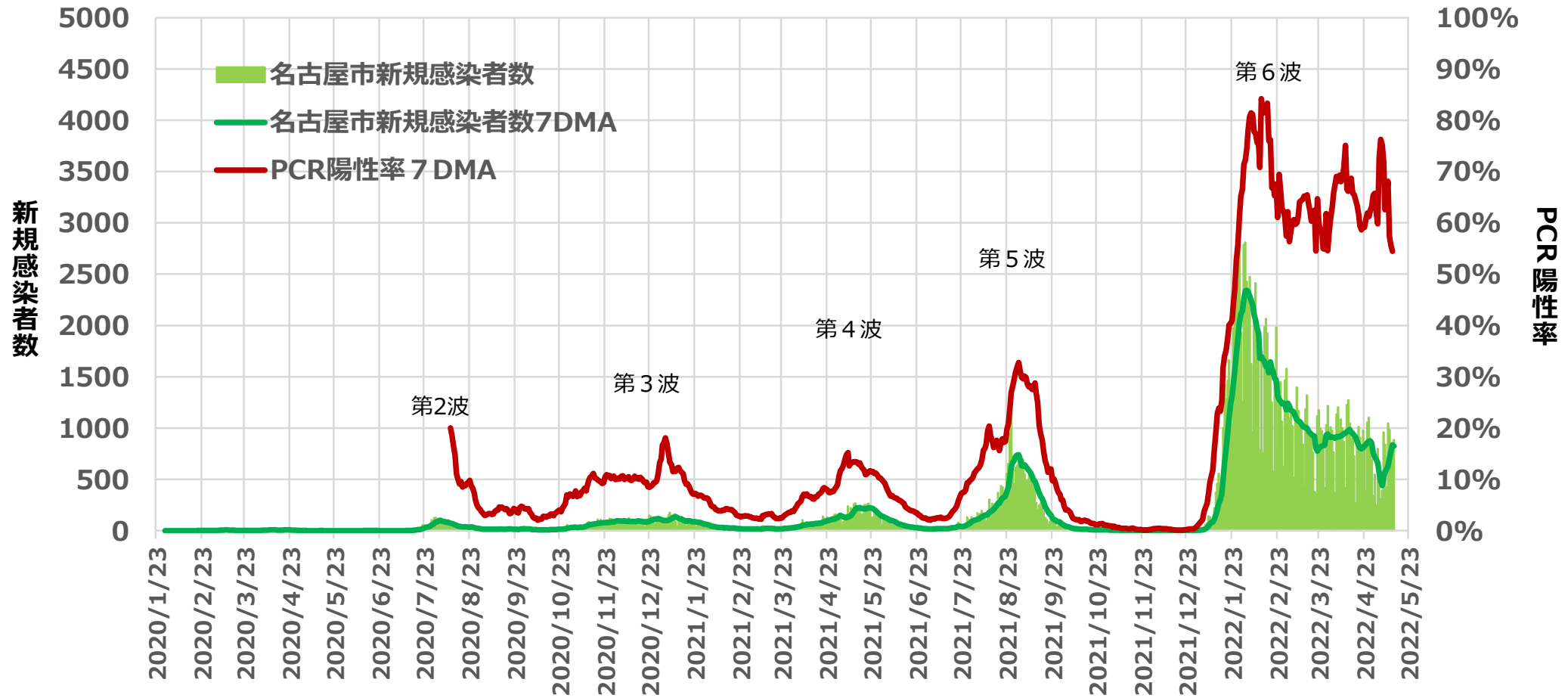


名古屋市各区の今年に入ってからの月間の感染者数が公表されました。Ishikawaの住む名古屋市昭和区は緑線です。第5波までは歓楽街の集中する赤線の中区に感染者が多い傾向でしたが、オミクロン株流行の第6波では名古屋市全区でまんべんなく感染者が出ています。第160報では、Ishikawaの周りで実際にはどれくらいの感染者が出ているのか??、公表された第3・4回抗体保有調査報告書 (mhlw.go.jp)もひもときながら、検討してみました。

今年に入ってから4カ月間の名古屋市各区の累計感染者数です。Ishikawaの住む名古屋市昭和区では住民の6.3%、約20人に1人がオミクロン株に感染した勘定です。名古屋市在住の諸兄姉の周りの数字はどうでしょうか？しかし、この数字、信じてもいいのでしょうか？というのも・・・

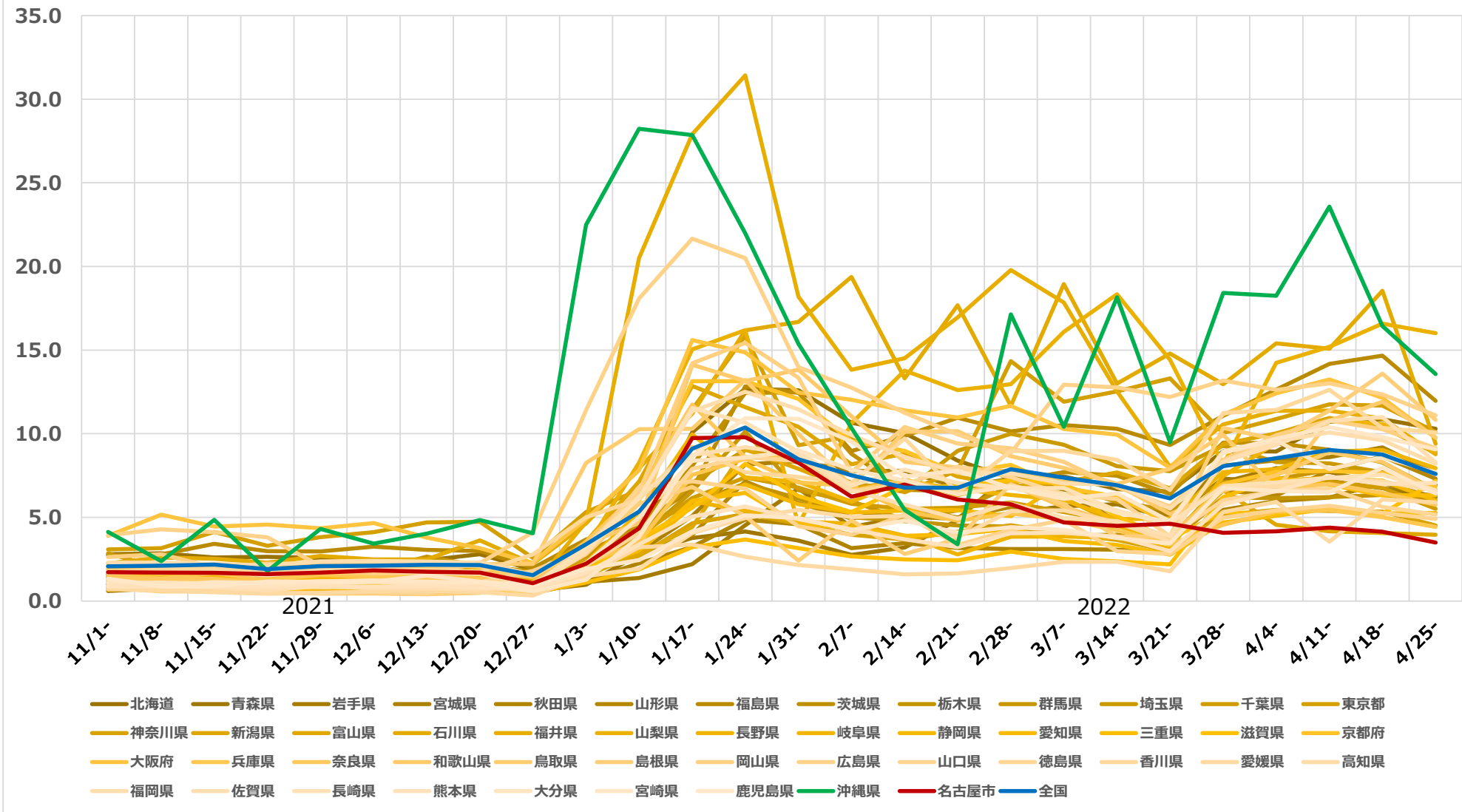
	オミクロン株 感染者数 (2022.1~4)	区人口	既往感染住民の 比率
中区	7,513	91,825	8.2%
東区	5,280	83,878	6.3%
西区	7,900	150,310	5.3%
中村区	8,886	134,877	6.6%
千種区	8,833	166,079	5.3%
昭和区	6,985	110,814	6.3%
北区	9,942	163,557	6.1%
中川区	12,784	220,420	5.8%
熱田区	3,689	66,460	5.6%
瑞穂区	5,541	108,202	5.1%
守山区	9,275	176,750	5.2%
港区	7,102	143,627	4.9%
緑区	12,638	248,221	5.1%
南区	8,100	135,227	6.0%
名東区	7,793	164,599	4.7%
天白区	8,320	164,866	5.0%

名古屋市の新規感染者数とPCR陽性率の推移



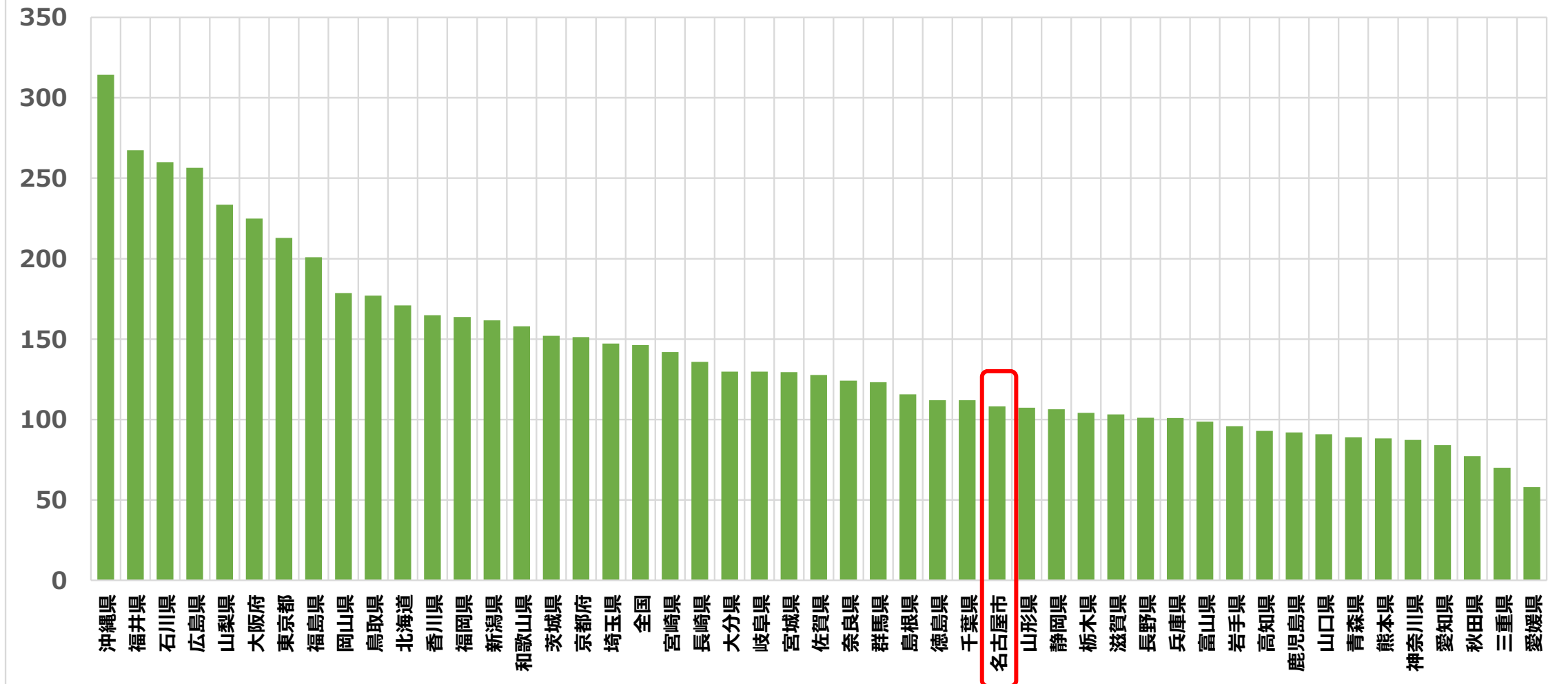
名古屋市の新規感染者数とPCR検査陽性率の推移です。第6波(オミクロン株流行)での名古屋市のPCR検査陽性率は60~80%で推移しています。こんな検査状況下で把握された名古屋市の感染者数は信頼に足る数字でしょうか!?

47都道府県の人口千人当りの検査人数(一週間累積)の推移



昨年11月からの全国、47都道府県の人口千人当りの検査人数(一週間)の推移です。緑線は沖縄県、青線が全国、そして名古屋市を赤線で示しました。名古屋市は全国平均を下回り、沖縄県の約1/3~1/4の検査数です。

47都道府県の過去6か月の累積検査数(人口1000当り)ランキング



昨年11月から今年4月の6ヶ月間の累積検査数(人口千当り)ランキングです。検査数のトップクラスは沖縄、福井、石川、広島県・・・です。名古屋市は貧弱です。因みに、同じ期間のスイスのそれは1,095、感染爆発した香港のそれは2,370(沖縄県の約7倍)です。

我が国の貧弱な検査数から、どれくらいの取りこぼしの感染者が生じたのか？ 生じているのか？

その実態を明らかにする目的で企画されたのが抗体保有調査です。

当社サーベイリサーチセンターは厚生労働省から令和3年度新型コロナウイルス感染症に対する抗体保有状況調査の業務委託を受け、調査を実施いたします。お忙しいところ大変恐れ入りますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

調査の目的

日本における感染状況を適切に把握するとともに、今後の新型コロナウイルス感染症対策に活用することを目的として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第15条第2項に基づいて「新型コロナウイルス感染症に対する抗体保有状況調査」を実施いたします。

国内の検査陽性者数は2021年10月11日現在、171万人が確認されておりますが、実際の感染者数は報告されているよりも多いと考えられており、信頼性の高い結果を得るために抗体検査の実施が求められています。

国立感染症研究所が実施する研究として、無作為抽出による調査を実施いたします。本調査への参加は任意です。

<https://www.ric.u-tokyo.ac.jp/topics/2020/ig.html>

第3回、第4回抗体保有調査結果の速報値(レポート末尾のSupplement参照)をまとめた第3・4回抗体保有調査報告書 (mhlw.go.jp)が最近公表されました。

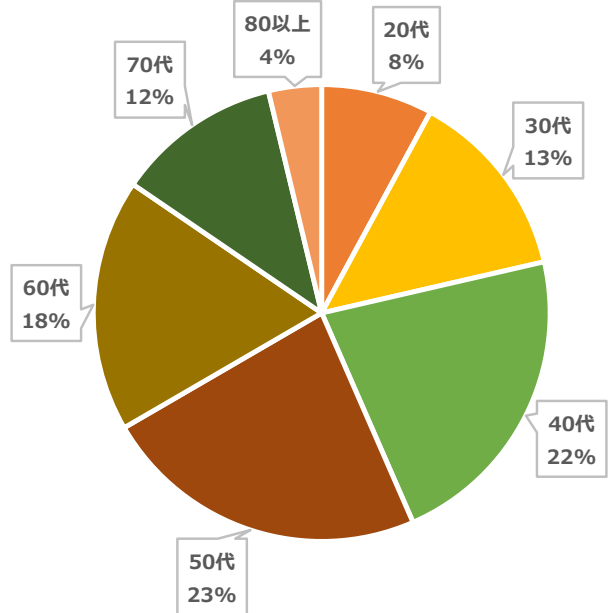
	調査対象者	既往感染者 [*]	感染率	実測の感染率 ^{**}
第3回抗体保有調査	1,581	29	1.8%	1.4%
第4回抗体保有調査	1,521	56	3.7%	4.2%

*抗N抗体陽性、あるいは問診で既感染

**第3回は2021/12/27時点の愛知県累積感染者数より算出、第4回は2022/3/6時点のそれより算出

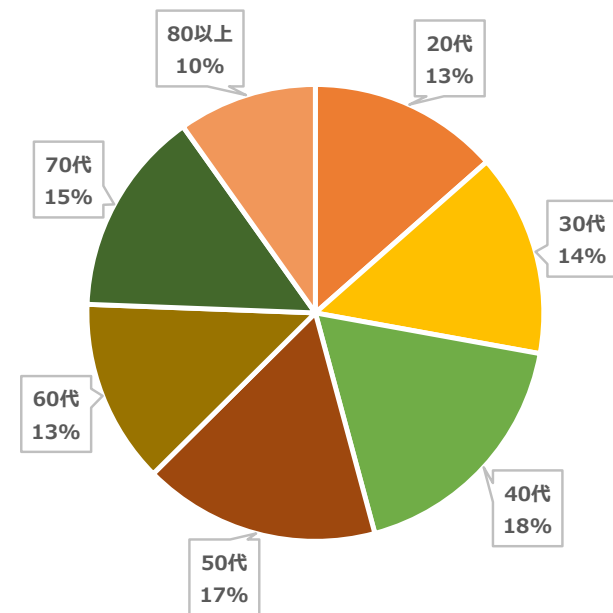
愛知県の結果です。結論から先に述べると、把握されていない感染者の実態を明らかにする事に失敗です。その原因は・・

第4回抗体保有調査



愛知県第4回抗体保有調査の対象者(20代以上)1521人の年齢構成

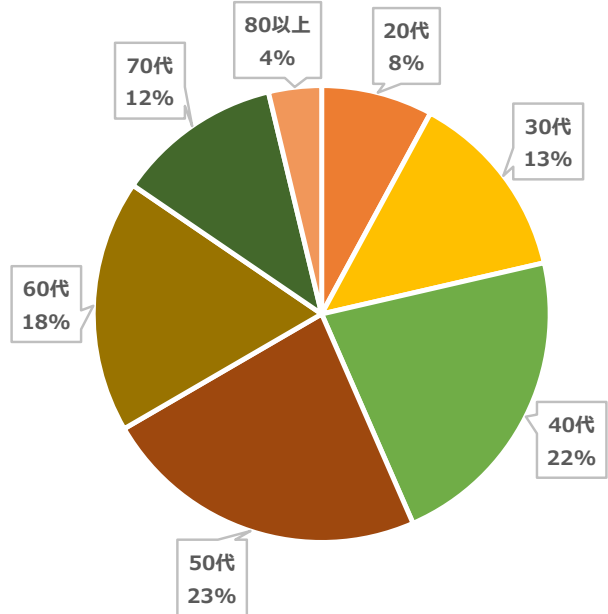
人口



愛知県の人口(20代以上)6198145人の年齢構成

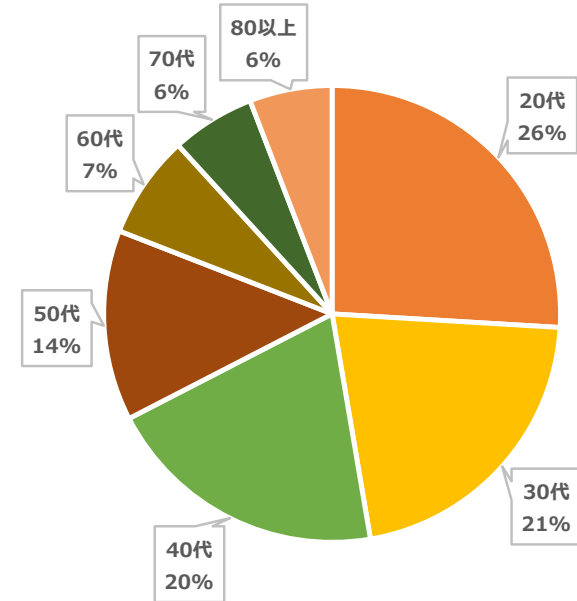
愛知県の第4回抗体保有調査で検討したところ、その母集団・対象者となった1,521人の年齢構成が、愛知県の20代以上の人口6,198,145人の年齢構成と不一致です。

第4回抗体保有調査



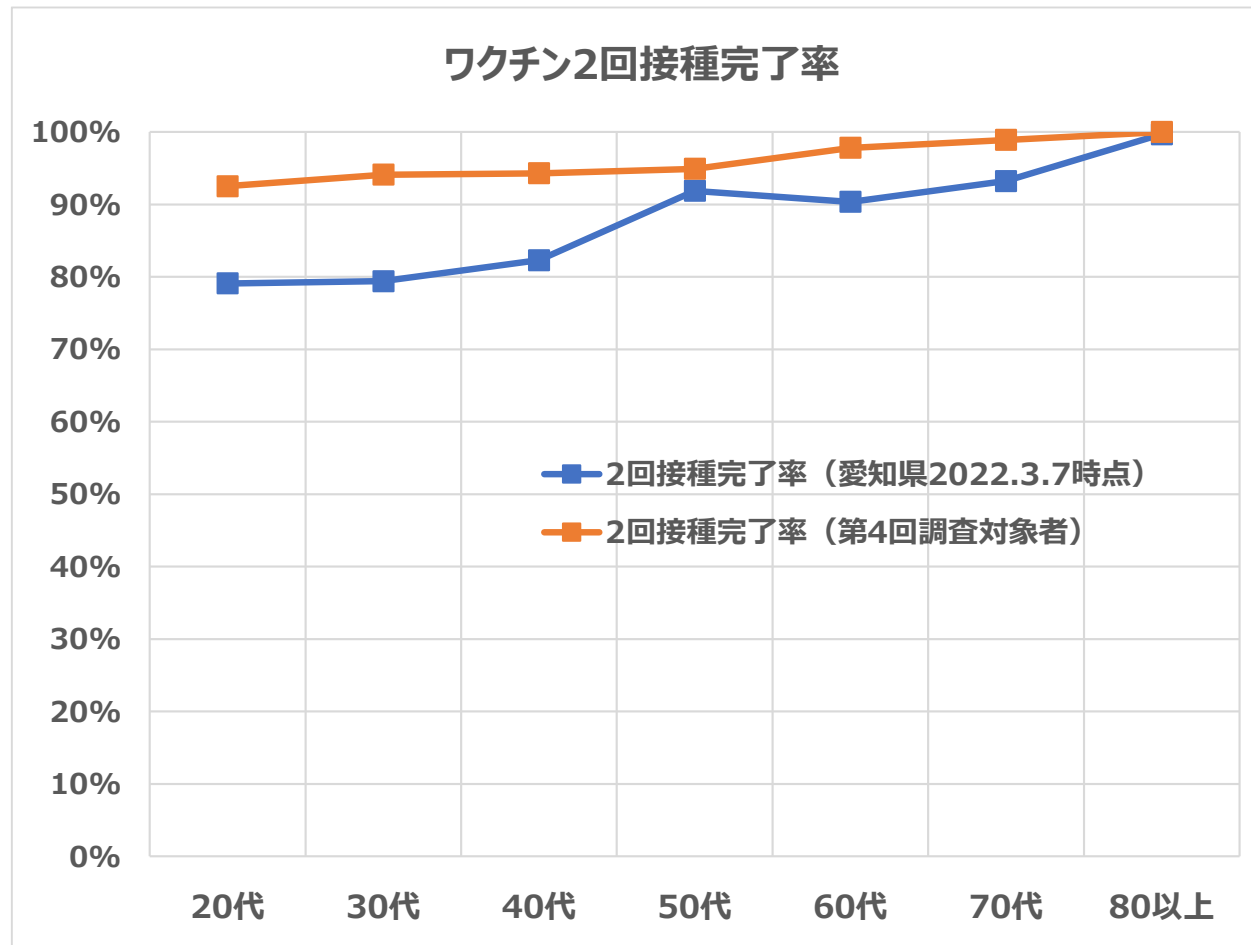
愛知県第4回抗体保有調査の対象者(20代以上)1521人の年齢構成

感染者累計



2022/3/6時点までの愛知県の20代以上の累積感染者の年齢構成

また、愛知県の第4回抗体保有調査の母集団・対象者となった1,521人の年齢構成を、愛知県の20代以上の累計感染者257,464人の年齢構成と比較してみると、抗体保有調査では余りに20代、30代の対象者が少ないです。

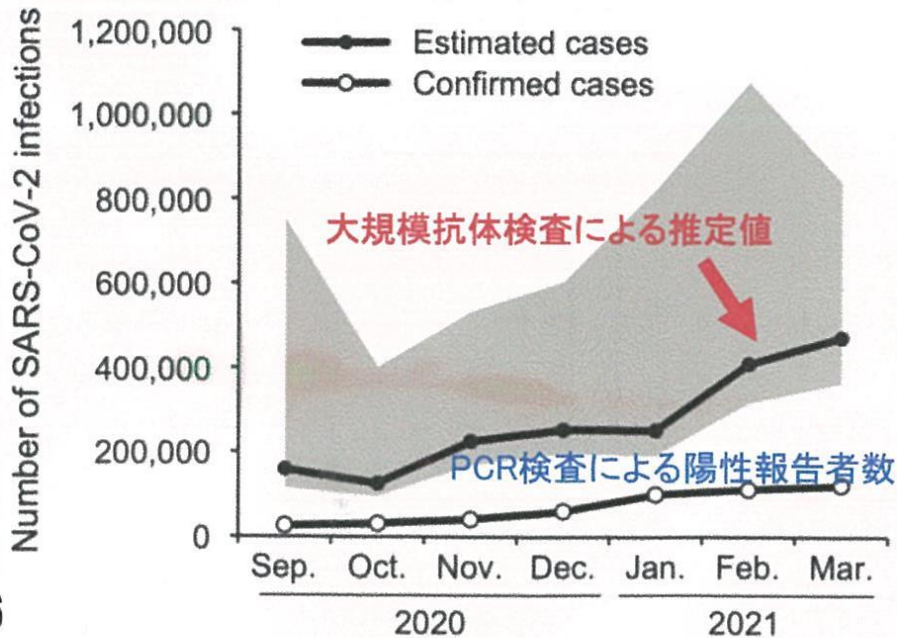


愛知県の第4回抗体保有調査の母集団・対象者となった1,521人のワクチン2回接種完了率を、同時期の愛知県の20代以上のそれと比較した図です。抗体保有調査に参加した母集団・対象者のワクチン2回接種完了率の高さが明らかです。

調査報告書でも、把握されていない感染者の実態解明を目指した調査の失敗を「調査参加者の多くが感染防御に熱心なワクチン接種者が自分の抗体価を知りたくて参加」と、調査対象の偏りが主因と結論しています。詳細は本レポートで紹介しきれませんので、第3・4回抗体保有調査報告書 (mhlw.go.jp)を是非お読み下さい。

実測感染者数の約4倍が我が国の実際の感染者数と云う
真田らの報告の信憑性を今は信ずる他ないようです。

(2)市中感染の割合



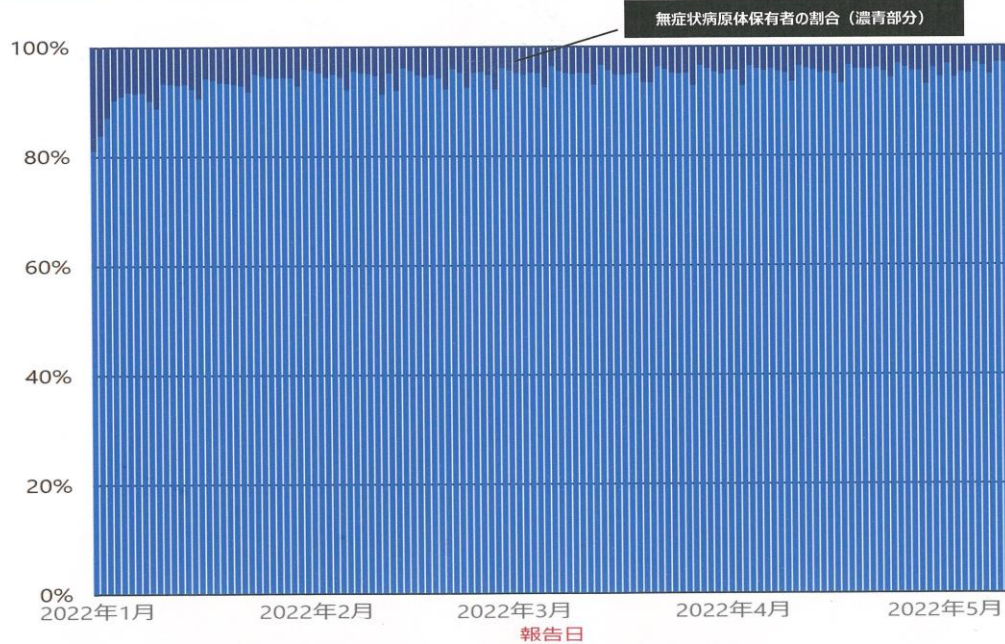
東京都内の医療施設を利用した23,234人を対象に新型コロナウイルスに対する大規模抗体疫学調査を実施した結果、2021年の3月時点において東京都内における抗体陽性率は3.04%であることが分かった。すなわち、東京都民1,300万人のうち、470,778人が新型コロナウイルスに感染していた計算となる。この数は当時PCR検査により報告された累計感染者数(120,986人)の約4倍に相当する。

真田、小原ら J Epidemiol. 2021 Nov 13.

レポートの最初に、Ishikawaの住む名古屋市昭和区の今年に入ってから4カ月間に把握された感染者は住民の6.3%と紹介しました。その約4倍が実際の感染者数とすると、私の住む地域では約4人に1人がオミクロン株に感染した勘定となります。本当かな～!? しかし・・

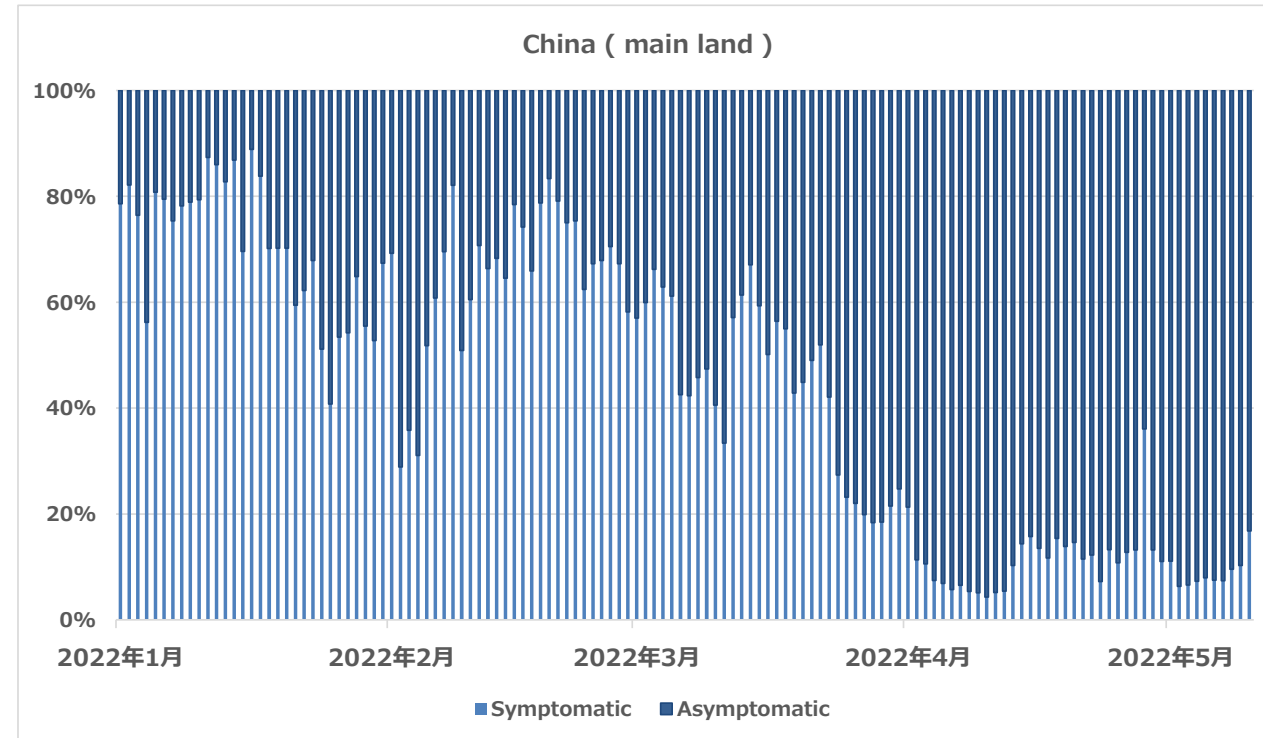
届出時点における無症状病原体保有者の割合（報告日別、HER-SYSデータ）

- 発生届提出時点における無症状病原体保有者の割合を時系列で整理したもの。（全国、全年齢）
- 直近では、無症状病原体保有者の割合が4～5%で推移している。



*5/10 9:00時点の入力データを基に算出。年齢不詳は除いている。

67



左図は第83回厚労省アドバイザリーボード(2022/5/11)に提出された資料です
[PowerPoint プレゼンテーション \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp)。我が国では無症候感染者が殆ど把握されていません。一方、ゼロ・コロナ政策の為に、無症候を含む根こそぎの感染者の把握を必要とする中国(本土)の無症候感染者の割合が右図です。感染者の約8割が無症候です。我が国と同じオミクロン株の感染流行です。やっぱり、実態は約4倍かな・・

Supplement

第3回抗体保有調査 速報結果 (令和3年度新型コロナウイルス感染症大規模血清疫学調査)

概要

[令和2年度3次補正予算\(繰り越し\)による新型コロナウイルス抗体保有調査\(概要\) \(mhlw.go.jp\)](#)

- 令和3年12月3日～27日にかけて、東京都・大阪府・宮城県・愛知県・福岡県において、無作為抽出し、本調査への参加に同意をいただいた一般住民の方(東京都2036名、大阪府1455名、宮城県1700名、愛知県1581名、福岡県1375名、計8147名)を対象に抗N抗体、抗S抗体の2種類の抗体検査を実施しました。
- 新型コロナウイルスに自然感染した場合は抗N抗体・抗S抗体の両者が陽性になり、ワクチンを接種した場合は抗S抗体のみが陽性になると考えられています。

ポイント

測定結果 (まとめ)

- 各自治体で抗N抗体が陽性であった割合は以下の通りでした。
(※自然感染を想定)
東京都 2.80%, 大阪府 3.78%, 宮城県 1.18%, 愛知県 1.58%, 福岡県 1.45%
- 参考 第1回結果(令和2年6月) 東京都 0.10%, 大阪府 0.17%, 宮城県 0.03%
第2回結果(令和2年12月) 東京都 1.35%, 大阪府 0.69%, 宮城県 0.14%,
愛知県 0.71%, 福岡県 0.42%
- 各自治体で抗S抗体が陽性であった割合は以下の通りでした。
(※ワクチンによる免疫保有者または自然感染の合計を想定)
東京都 96.9%, 大阪府 94.6%, 宮城県 97.2%, 愛知県 95.8%, 福岡県 96.9%

第3回抗体保有調査 速報結果 (令和3年度新型コロナウイルス感染症大規模血清疫学調査)

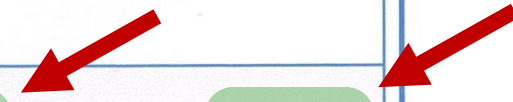
**第142報
再掲**

令和2年度3次補正予算
(繰り越し)による新型コロナウイルス抗体保有調査(概要) (mhlw.go.jp)。

測定結果 (速報)

	S抗体 (+)	S抗体 (-)	計
宮城県	N抗体 (+)	0	20
	N抗体 (-)	48	1632
	計	48	1700
東京都	N抗体 (+)	0	57
	N抗体 (-)	64	1915
	計	64	2036
愛知県	N抗体 (+)	0	25
	N抗体 (-)	66	1490
	計	66	1581
大阪府	N抗体 (+)	0	55
	N抗体 (-)	78	1322
	計	78	1455
福岡県	N抗体 (+)	0	20
	N抗体 (-)	43	1312
	計	43	1375

N抗体保有割合 [95%信頼区間]	S抗体保有割合 [95%信頼区間]	累積感染者数 /人口※参考 (12/27時点)
1.18% [0.75-1.82%]	97.2% [96.3-97.9%]	0.71%
2.80% [2.16-3.62%]	96.9% [96.0-97.5%]	2.73%
1.58% [1.06-2.33%]	95.8% [94.7-96.7%]	1.42%
3.78% [2.91-4.90%]	94.6% [93.4-95.7%]	2.30%
1.45% [0.93-2.25%]	96.9% [95.8-97.6%]	1.46%



令和4年2月2日～ 3月6日の期間に実 施された第4回抗 体保有調査結果 (速報値)

[PowerPoint プレゼ
ンテーション
\(mhlw.go.jp\)](#)

第80回(令和4年4月13日) 新型コロナウイルス感染症対策 アドバイザリーボード	資料5-1
事務局提出資料	

第4回抗体保有調査 速報結果 (令和3年度新型コロナウイルス感染症大規模血清疫学調査)

概要

- 令和4年2月2日～3月6日にかけて、東京都・大阪府・宮城県・愛知県・福岡県において、無作為抽出し、本調査への参加に同意をいただいた一般住民の方(東京都1912名、大阪府1353名、宮城県1814名、愛知県1521名、福岡県1549名、計8149名)を対象に抗N抗体、抗S抗体の2種類の抗体検査を実施しました。

- ワクチンを接種した場合は、抗S抗体のみが陽性になります。
- 新型コロナウイルスに感染した場合は、抗N抗体と抗S抗体の両者が陽性になります。

測定結果 (まとめ)

- 各自治体で抗S抗体が陽性であった割合は以下の通りでした。
東京都 97.1%, 大阪府 96.4%, 宮城県 96.9%, 愛知県 96.1%, 福岡県 96.4%

参考 第3回結果(令和3年12月3～27日) 東京都 96.9%, 大阪府 94.6%, 宮城県 97.2%, 愛知県 95.8%, 福岡県 96.9%

- 各自治体で抗N抗体が陽性であった割合は以下の通りでした。
東京都 5.65%, 大阪府 5.32%, 宮城県 1.49%, 愛知県 3.09%, 福岡県 2.71%

参考 第1回結果(令和2年6月1～7日) 東京都 0.10%, 大阪府 0.17%, 宮城県 0.03%

第2回結果(令和2年12月14～25日) 東京都 1.35%, 大阪府 0.69%, 宮城県 0.14%, 愛知県 0.71%, 福岡県 0.42%

第3回結果(令和3年12月3～27日) 東京都 2.80%, 大阪府 3.78%, 宮城県 1.18%, 愛知県 1.58%, 福岡県 1.45%

第4回抗体保有調査 速報結果 (令和3年度新型コロナウイルス感染症大規模血清疫学調査)

測定結果 (速報)

	測定結果 (速報)			抗S抗体保有割合 [95%信頼区間]	抗N抗体保有割合 [95%信頼区間]	累積感染者数 /人口※
	S抗体 (+)	S抗体 (-)	計			
宮城県	N抗体 (+)	27	0	96.9% [95.9-97.6%]	1.49% [1.02-2.17%]	0.96~1.90%
	N抗体 (-)	1730	57			
	計	1757	57			
東京都	S抗体 (+)			97.1% [96.3-97.8%]	5.65% [4.70-6.78%]	4.22~7.49%
	N抗体 (+)	108	0			
	N抗体 (-)	1749	55			
計	1857	55	1912			
愛知県	S抗体 (+)			96.1% [95.0-97.0%]	3.09% [2.32-4.09%]	2.23~4.48%
	N抗体 (+)	47	0			
	N抗体 (-)	1415	59			
計	1462	59	1521			
大阪府	S抗体 (+)			96.4% [95.2-97.3%]	5.32% [4.24-6.66%]	3.88~7.77%
	N抗体 (+)	69	3			
	N抗体 (-)	1235	46			
計	1304	49	1353			
福岡県	S抗体 (+)			96.4% [95.4-97.3%]	2.71% [2.00-3.65%]	2.50~4.82%
	N抗体 (+)	42	0			
	N抗体 (-)	1452	55			
計	1494	55	1549			

※累積感染者数/人口は2月2日から3月6日までの推移。

令和4年2月2日～
3月6日の期間に実
施された第4回抗
体保有調査結果
(速報値)

[PowerPoint プレゼ
ンテーション
\(mhlw.go.jp\)](#)